

運動部活動指導者養成プログラム

現状、下記の内容を実施した。

第1回：令和元年12月16日（月）開催、「部活動の意義」、「部活動指導に関する質問紙」（本学C302教室）、9人参加。

第2回：令和2年1月24日（金）開催、「部活動指導員制度と新学習指導要領上での扱い」（本学L201教室）、350人参加。

第3回：令和2年2月5日（水）開催、「熱中症『0』を目指して」（本学C205教室）

熱中症対策アドバイザー養成講座として大塚製薬株式会社が協力、20人参加。

※第2回、第3回は本学ホームページも参照。



なお、養成プログラムは、各セミナー修了時に別紙の「修了証」を渡す。学生は、前述の通り受講項目数に応じて指導者として推薦、派遣の対象者となり、質保証を研修システムで担保する仕組みである。全講座の修了をもって、当該学生を本学が「運動部活動指導者」として適任者であることを認証するシステムを今後構築していく予定である。この「運動部活動指導者」として適任者は、学校現場の教員と協働体制が組める資質・能力を持ち合わせた状態に育成する。そのうえで、スポーツ競技の技術指導（ICTを活動した指導法を含む。）は必修として、生徒指導、引率、他の教職員や保護者、地域住民とのコミュニケーションを図り、運動部活動の有用性をふまえた持続可能な運営体制推進の一部を担うことができる人材を養成するシステムである。



公開シンポジウム

日時：令和2年1月24日（金） 16時20分～17時50分 会場 本学L201大教室

参加者：350人（教委、一般教職員、本学教職員・大学院生、体育学部・教育学部生ほか）



はじめに「運動部活動改革プラン」事業の研究代表である藤本教授が開会の挨拶を行った。続いて、研究チームプロジェクトチーム・リーダーの中尾准教授が本事業の趣旨について、その後、第2回養成セミナーを兼ね「部活動指導員制度と新学習指導要領」と題した講話を行った。その資料として、参加者一人一人に、「運動部活動での指導のガイドライン（平成25年、文部科学省）」を内包した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（平成30年、スポーツ庁）全24頁を配付し、あらためて周知を行った。

次に、パネルディスカッション形式で「部活動指導員・外部指導者の実態」として30分間程発表や協議を行った。具体的には、部活動指導員として大阪市立大正中央中学校でハンドボール部を指導するスポーツ科学研究科2年女性、部活動指導員として神戸市立雲雀丘中学校でバスケットボール部を指導する体育学部3年男性、外部指導者として大阪府熊取町立熊取南中学校の剣道部を指導する体育学部の3年女性、学生ボランティアとして大阪府岸和田市立北中学校のバスケットボール部を指導する体育学部3年男性（ラグビーフットボール経験者）が、思いの熱い体験談を語った。コーディネーターの小林准教授から、指導を行うようになったきっかけ、またやりがいなどが問われた。

続いて、3つの府市町の教育委員会の立場から報告がなされた。1番目に、大阪府教育庁の指導主事から、大阪府の事業として、外部指導者は有償ボランティアとして1回2時間当たり2650円で年間30回程度であること、また、平成30年度から部活動指導員制度を導入し、指導員は実際に顧問として試合の引率にも行っており、報酬は1時間1600円で1か月に約40時間実施してもらっていること、同年度は138の全日制高校で10校に配置したこと等が報告された。2番目に、大阪府の熊取町教育委員会理事より、大阪体育大学の学生は、中学生へのスポーツ指導等に誘うと眼を輝かせており、これは一緒に活動したいと考えて大阪体育大学スポーツ局のDASHプロジェクトと協定を結んだこと、パネルディスカッションで登壇した学生には剣道の指導に来てもらっており、生徒や教職員にとっても好評で、教師としての人間性や資質を持ち合わせていて、是非熊取町の教員になってほしいし、もっと指導に来てほしい、という旨の報告があった。なお熊取町としては現状、部活動指導員制度を行う予定はないとのことである。3番目に、大阪市教育委員会指導部の首席指導主事より、大阪市立中学校の運動部参加率は、生徒男女合わせて約55%で、市内130中学校に運動部・文化部あわせて1500を超える部活動が設置されていること、意識調査では教員の4分の1が部活動顧問に対して消極的であるという結果が出たこと、現在市内161の部活動に1名ずつ、161名の部活動指導員を配置していること、現場の校長先生とも調整しながら、ガイドラインに沿って教員・生徒・保護者等に対して、部活動におけるさらなる意識改革を進めていきたい旨等の報告があった。

結びに、（一社）アスリートネットワーク副理事長巽氏より、今回の部活動指導員制度や働き方改革を巡る行政面からの課題提起や、その中における本学の取組や学生への期待が語られ、閉会した。